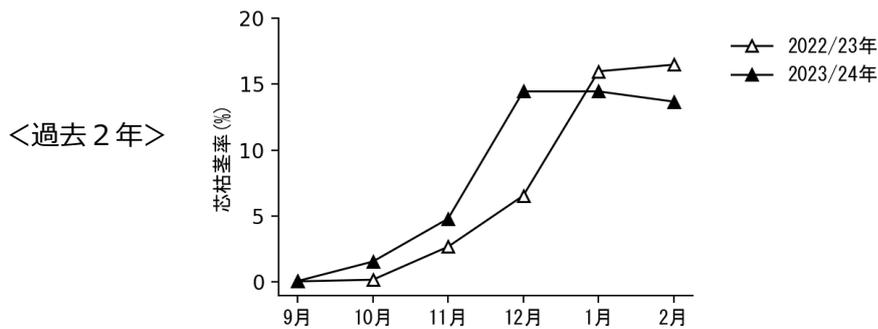
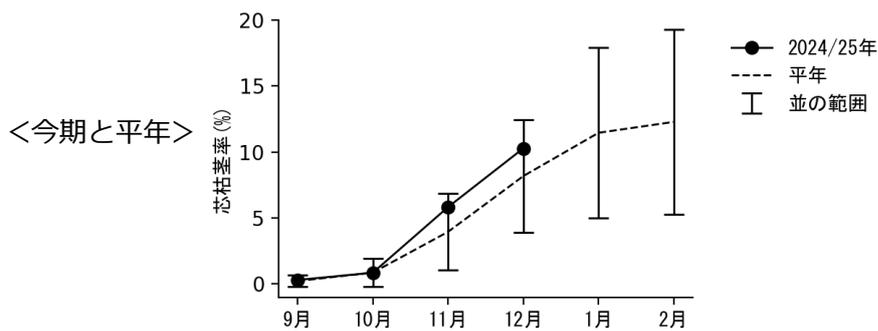


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

芯枯莖率の推移 (夏植え)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ (59%)、イネヨトウ (41%)
- ・発生ほ場率95.0% (平年：93.6%)

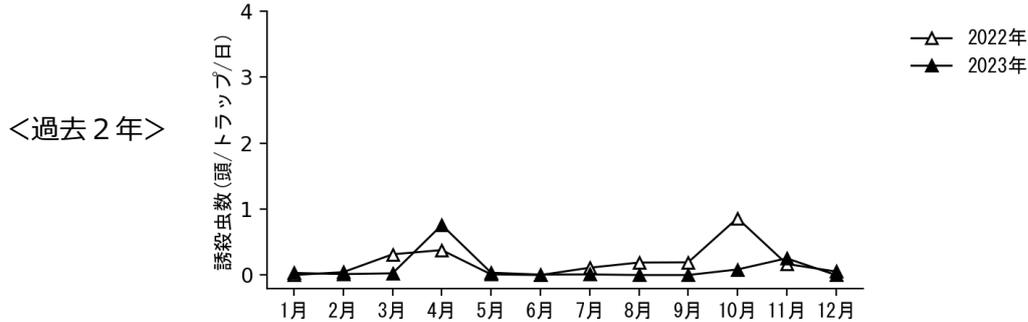
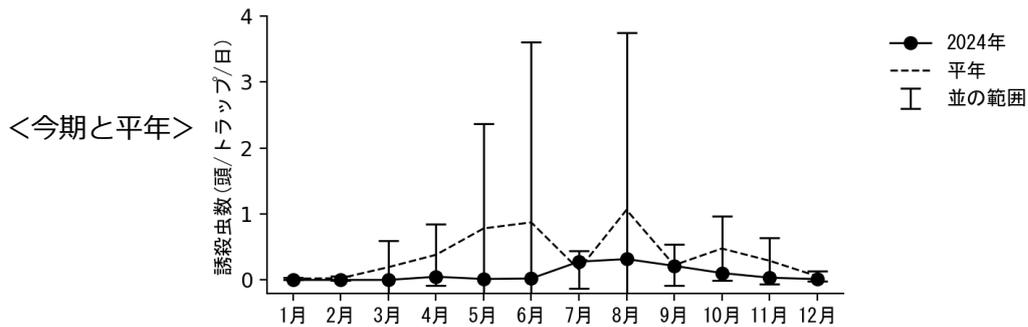
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・莖葉への乳剤は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 33.3%)

防除のポイント

- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・出蕾・開花期における本種の増加を抑制するため、ビニール被覆前後に予防散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。

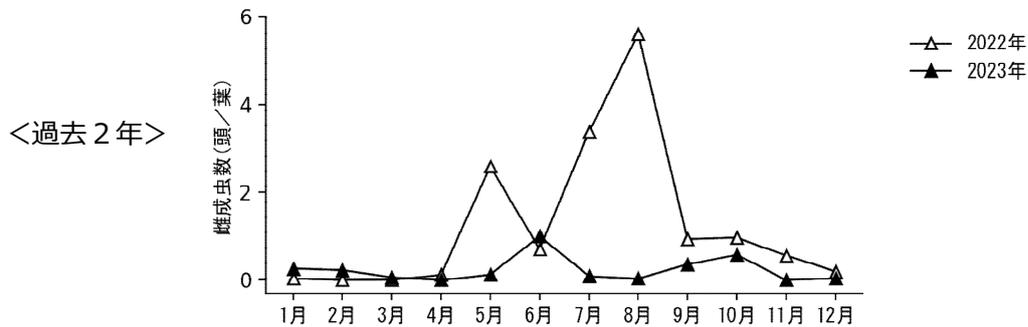
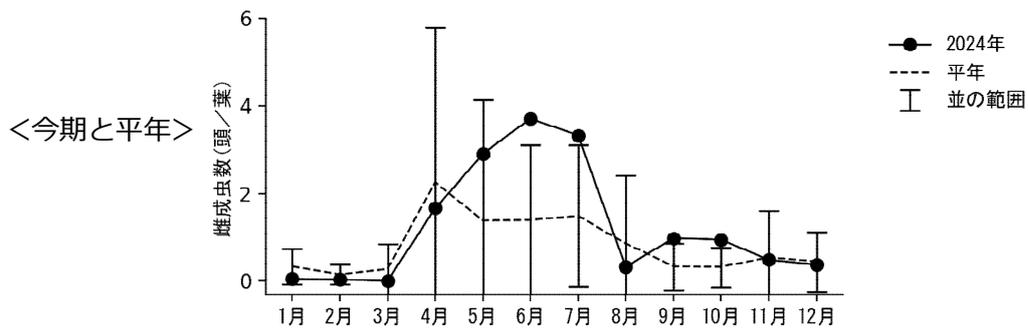


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

雌成虫数の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 32.3%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少がらの防除が期待できる。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

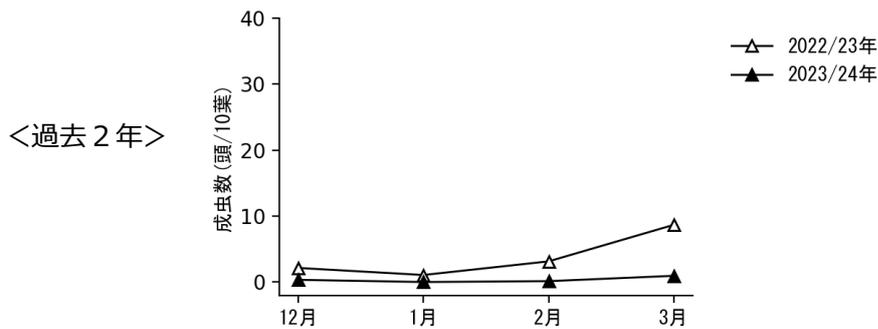
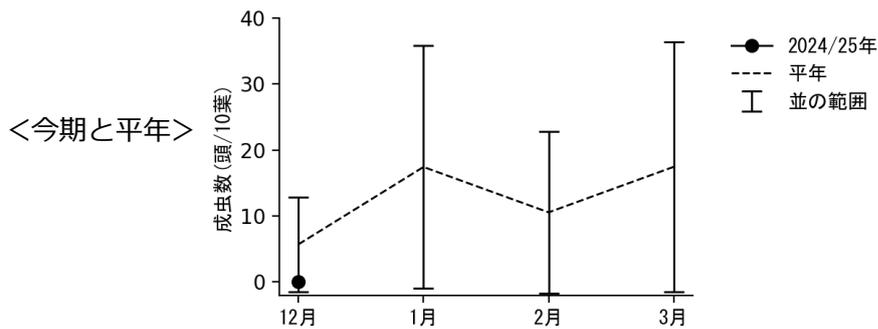


マンゴーツメハダニ

作物	さやいんげん(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	① タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率25.0% (平年 : 32.6%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

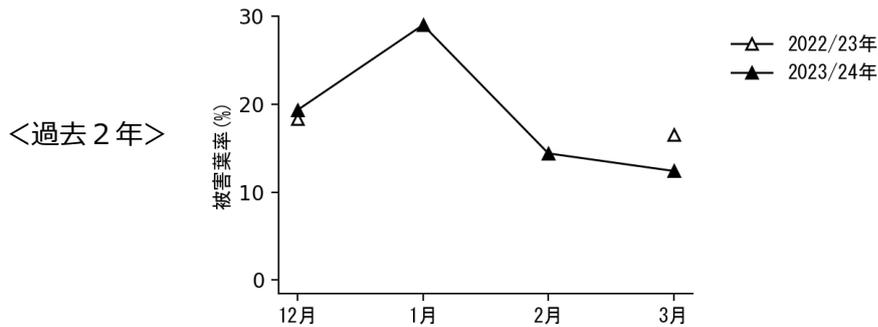
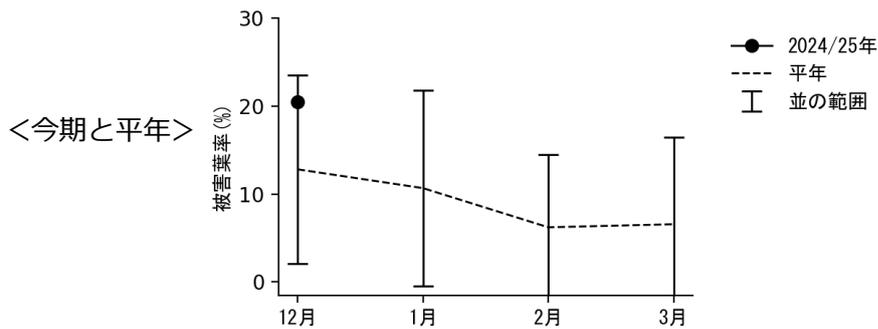


幼虫

作物	さやいんげん(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	② ハモグリバエ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	↘		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↘)		

調査結果

被害葉率の推移



・発生施設率100% (平年 : 78.9%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・多数の在来天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

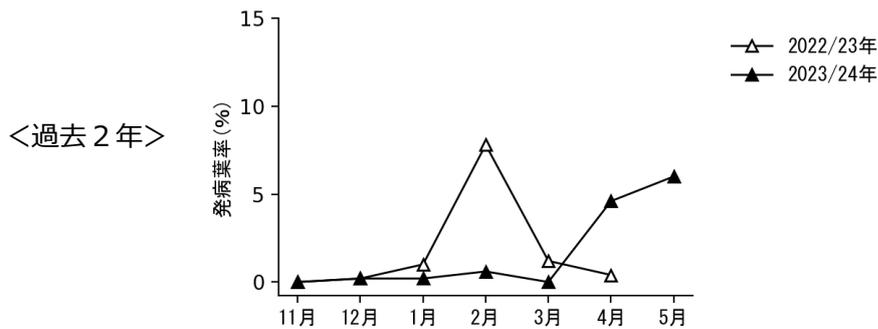
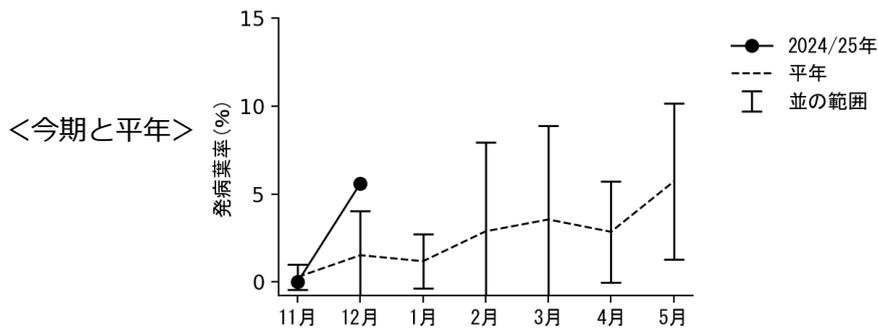


被害葉

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

発病葉率の推移



- ・発生施設率20.0% (平年：32.0%)
- ・一部施設で多発

防除のポイント

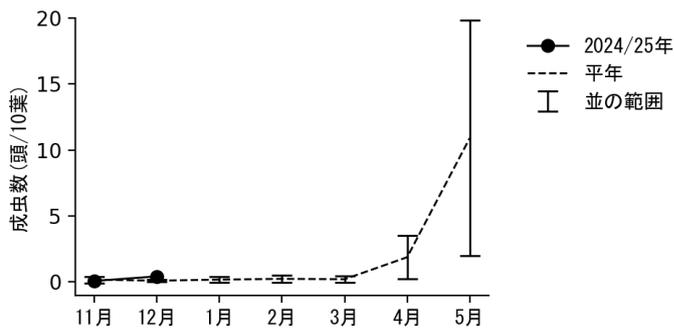
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

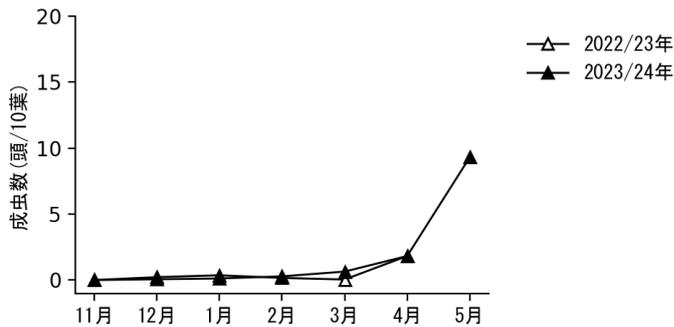
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生施設率40.0% (平年：32.0%)
- ・一部施設で多発

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

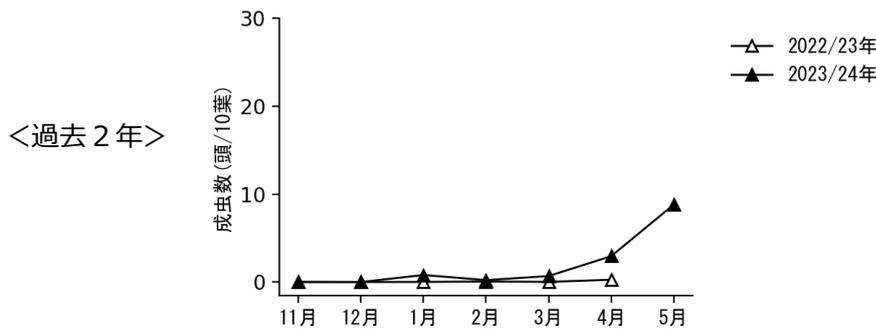
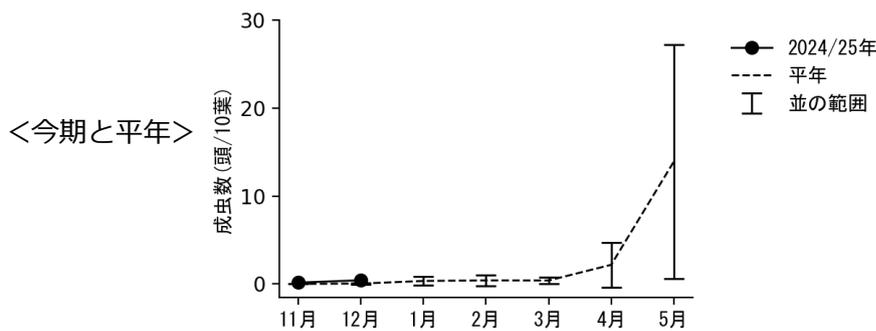
作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	



成虫

調査結果

成虫数の推移



- ・発生施設率40.0% (平年：4.0%)
- ・一部施設で多発

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。



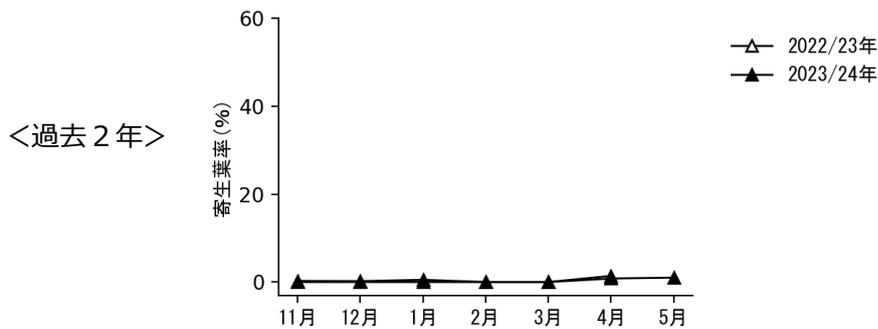
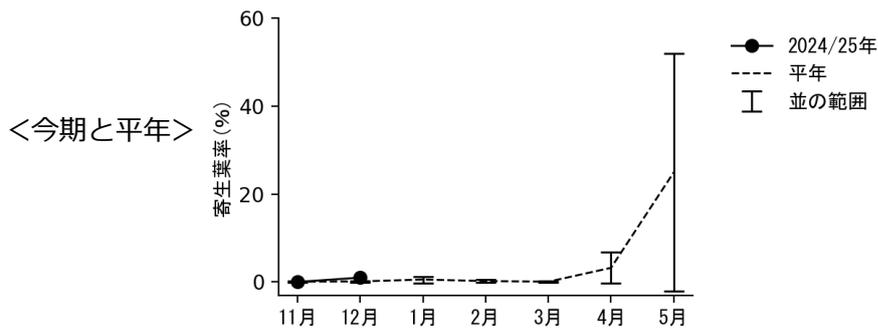
幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	



調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生施設率40.0% (平年：12.0%)
- ・一部施設で多発

防除のポイント

- ・発生源となる施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。

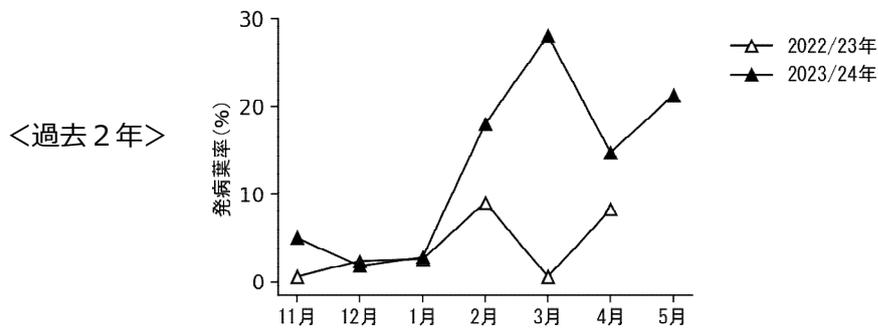
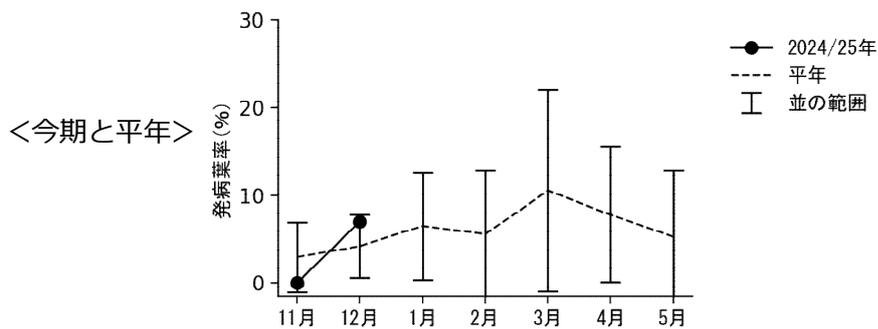


幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 49.1%)

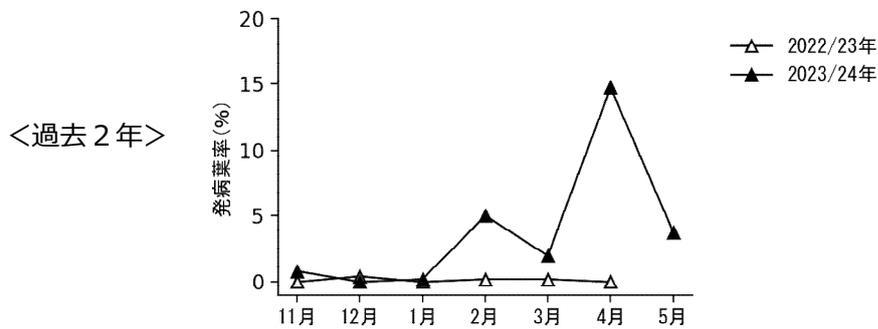
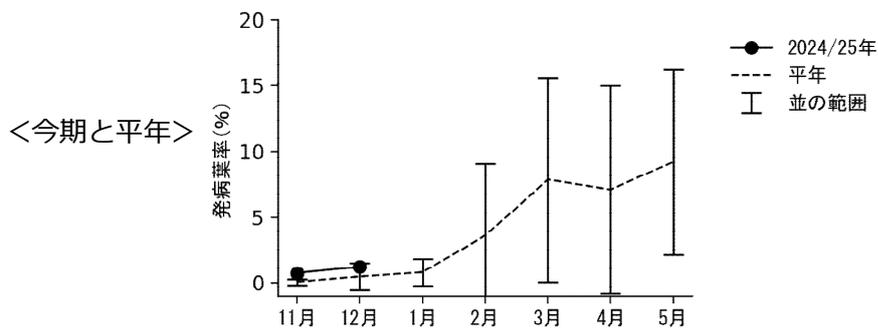
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	② 斑点病		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 16.4%)

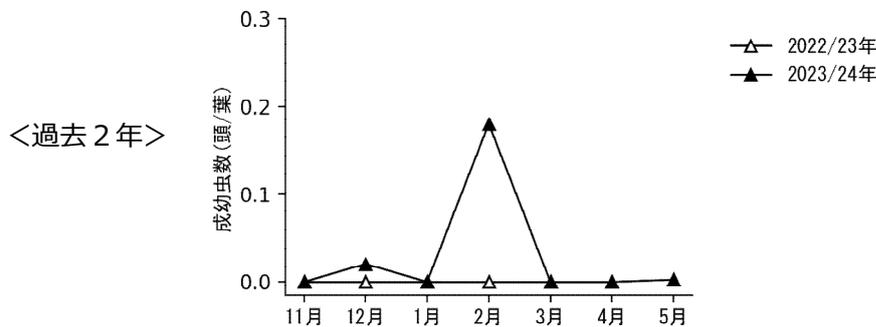
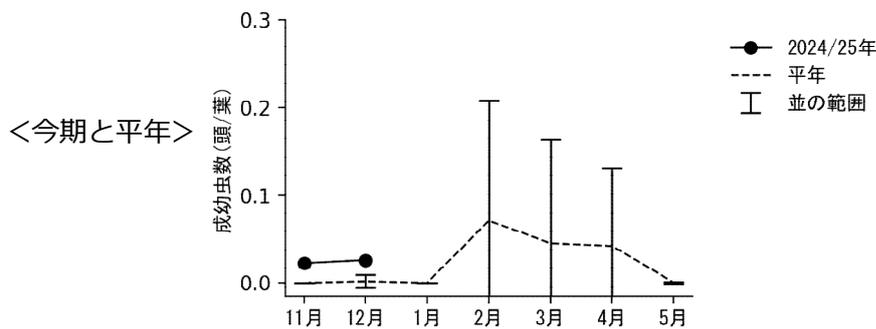
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	③ アブラムシ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生施設率20.0% (平年：1.8%)
- ・一部施設の一部の株で多発生

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。